山梨県透析医会だより

三井克也

前回，日本透析医会雑誌において，山梨県透析医会の概要を書かせていただきました[1]．今回は，山梨県の気候の特徴や地震について，そして富士山噴火について書かせていただきます．

1　山梨県の気候の特徴と気象災害について

山梨県のほとんどの地域は「内陸気候」です．特に，盆地では気候の内陸性が顕著に現れ，夏暑く冬寒い「盆地気候」を呈しています．年間降水量は盆地で少なく約 1,000 mm ですが，富士五湖地方や富士川流域（釜無川に笛吹川が合流する地点より下流）の多雨地域では，この値の 2 倍強に達するところがあります．このように県内には少雨地域と多雨地域とが混在しています．

山梨県民は「山梨県は自然災害が少なく住みやすい」と考える傾向があります．確かに他県に比べると大雨による洪水被害は少なく，また台風の進路からは外れることが多いため，台風による水害や風害も滅多に見られません．東部・富士五湖地方や北部・西部の山間部を除けば，降雪もほとんどありません．しかし，2015 年 2 月 14 日から 15 日にかけて山梨県内で大雪が降り，甲府で 114 cm，河口湖で 143 cm といずれも観測史上 1 位を記録しました．2 月 15 日土曜日は交通網が麻痺し，ほとんどの施設で透析を行うことができませんでした．この大雪がきっかけとなり，気象災害に対する備えを見直す動きが各方面で出てきています．

2　山梨県の地震活動の特徴

山梨県に被害を及ぼす地震は，主に相模，駿河，南海トラフ沿いで発生する海溝型巨大地震と，内陸の活断層で起きる直下型地震です．山梨県の主要な活断層は，長野県北西部から甲府盆地の西縁にかけて延びる，糸魚川－静岡構造線断層帯と，甲府盆地南縁に延びる曽根丘陵断層帯があります．歴史の資料からは，県内の活断層で発生した顕著な被害地震は知られていません．明治以降では，1898 年に県南西部で M 5.9 の地震があり，また 1908 年には県中部で M 5.8 の地震があり，小被害が生じました．過去に大きな被害が生じたのはいずれも海溝型地震です．中でも被害が大きかったのは 1923 年の関東地震（M 7.9）で，県の東部が震度 6 となり，県内で多数の家屋全壊などの被害が生じ，死者も出ました．県内の 14 市町村が，「首都直下地震緊急対策区域」に指定され，また県内の 25 市町が，「南海トラフ地震防災対策推進地域」に指定されています．

山梨県透析医会会長

3　富士山噴火

富士山は，約300年間噴火していませんが，火山専門家からは「いつ噴火してもおかしくない」と言われています．平成23年12月27日に公表された内閣府の防災基本計画において，避難等の火山防災対策に係る共同検討体制として，「火山防災協議会」が明確に位置づけられました．これを受け，平成24年6月8日に富士山火山における3県（山梨県・静岡県・神奈川県）で連携した防災対策（広域避難計画及び訓練計画の策定並びに合同訓練の実施など）を検討するため，「富士山火山防災対策協議会」が設立されました．この協議会において，平成16年に策定された富士山ハザードマップの改定作業が進められています．この改定作業においては，最新の科学的知見に基づき，現在の富士山ハザードマップが想定していない新たな噴火口を含む想定火口範囲が設定されるとともに，溶岩流の噴出物の規模等が大きく見直されました．そのため，噴火により影響を受ける地域は，広汎かつ大規模なものとなり，富士吉田市街地を始め人口集中地域へきわめて短時間で溶岩流が到達することなど，重大な災害リスクが明らかになりつつあります．

富士山の火山災害は，溶岩流や火砕流，噴石や火山灰など様々な火山現象が想定され，かつ，それぞれが引き起こす被害の範囲，規模などは異なります．今回のハザードマップ改定作業の中で確認された新たな噴火口から流れ出す溶岩流は，富士吉田市を中心とした市街地に到達するまでの時間がきわめて短時間になることが判明しました．具体的には，溶岩流が富士吉田市の市街地へ僅か2時間程度で到達する結果が得られました．このため，様々な火山現象のうち，まず，新たな噴火口から流れ出す溶岩流に対し，的確に対応できる対策を速やかに構築する必要があります．

噴火による降灰は富士山のある山梨・静岡だけでなく，首都圏などにも甚大な影響を及ぼすと言われています．今年の3月31日，政府の中央防災会議が富士山噴火のシミュレーションを明らかにしました．それによると宝永大噴火クラスの噴火が起きると，風向きによって首都圏で2〜10センチの火山灰が降り積もります．運悪く雨が降っていた場合，首都圏の電車がストップし，大規模な停電が東京，神奈川，千葉や埼玉で発生します．また少量の降灰でも，買い占めが起き，食料や水の売り切れが続出し，さらには基地局に灰が付着することで携帯電話も通じなくなるということが予想されています．

コロナウイルス感染症の終焉が見えない今，富士山噴火のような未曾有の大惨事が起こらないことを願うばかりです．

文　献

1）　三井克也：山梨県支部だより．日透医誌　2015；30(3)：567-568.